

IV 学習活動

- 大人には、学習指導の重点のおき方や望まれる教育内容、子どもには自身の学習観を聞くことで、現在の学校教育におけるニーズを把握することにした。
- 調査の結果、学校での学習指導の重点については、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれにおいても、「自ら考える力や表現する力」を身につけること、「基礎・基本の学習」、「集団の中で互いに学び合うこと」に重点をおいた方がよいと考えている割合が高くなっている。
具体的に見ると、「さらに力を入れてほしい教育内容」では、保護者、学校評議員、一般県民共に『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」と回答する割合が最も高くなっている。次いで、保護者は「コミュニケーション能力を高める英語教育」、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」、学校評議員と一般県民は「豊かな心を育む道徳教育」、「コミュニケーション能力を高める英語教育」となっている。
- また、子どもは「勉強する理由」について、回答の割合が高いのは、小学生は順に「立派な大人になるため」、「将来何かの役に立つと思うから」、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」となっている。
中学生は「高校や大学に進学したいから」、「将来何かの役に立つと思うから」、「立派な大人になるため」の順になっている。
高校生は「将来何かの役に立つと思うから」、「進学したいから」、「やりたい仕事があるから」の順になっている。
特別支援学校児童・生徒は「学校に行く理由」について、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」、「新しいことを知ることが楽しいから」、「立派な大人になるため」の順になっている。
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では、小学生は「将来何かの役に立つと思うから」となっている。高校生は「進学したいから」となっている。

IV-1 学習指導の重点① 「多くの知識や技能」か「自ら考える力・表現する力」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける」とB「自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「B」または「どちらかというともB」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「B」または「どちらかというともB」がいずれも高い割合となっている。

「B」または「どちらかというともB」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 83.0%、保護者 75.1%、学校評議員 81.7%となっている。中学校では、教職員 71.1%、保護者 69.5%、学校評議員 83.3%となっている。高等学校では、教職員 67.8%、保護者 75.0%、学校評議員 85.2%となっている。特別支援学校では、教職員 83.5%、保護者 61.5%、学校評議員 83.4%となっている。一般県民は 78.5%となっている。(図IV-1～5 参照)

図 IV-1 小学校

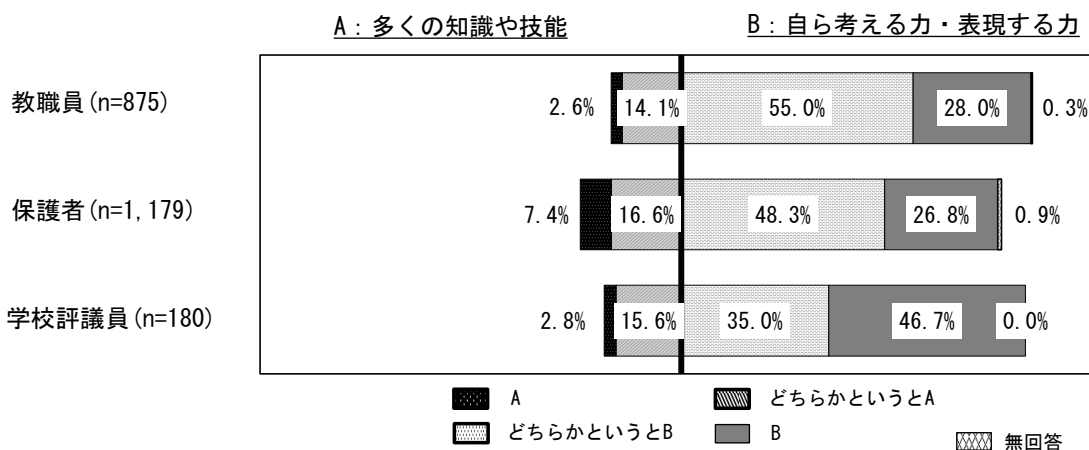


図 IV-2 中学校

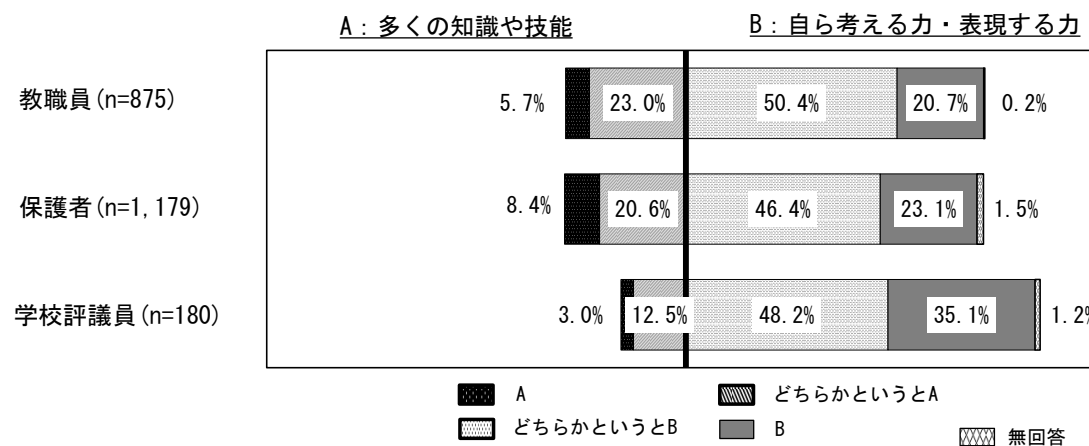


図 IV-3 高等学校

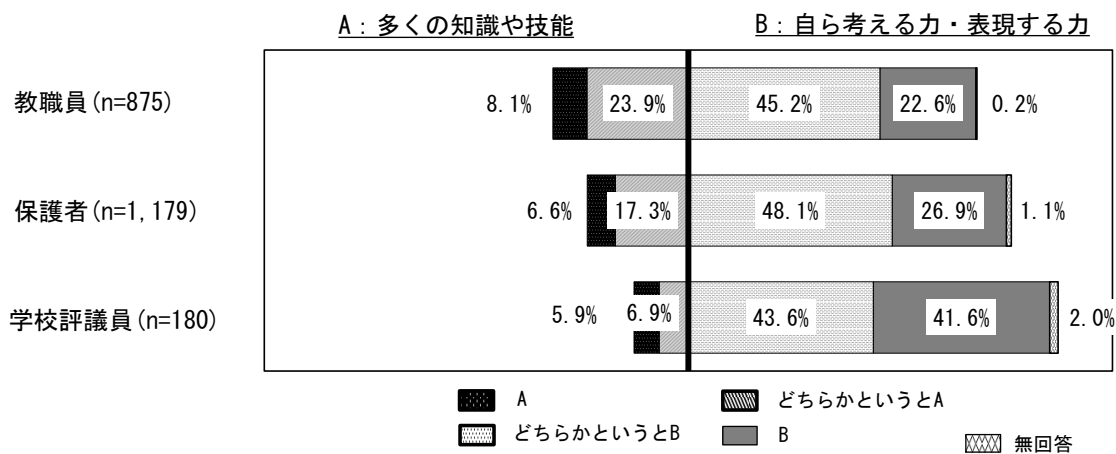


図 IV-4 特別支援学校

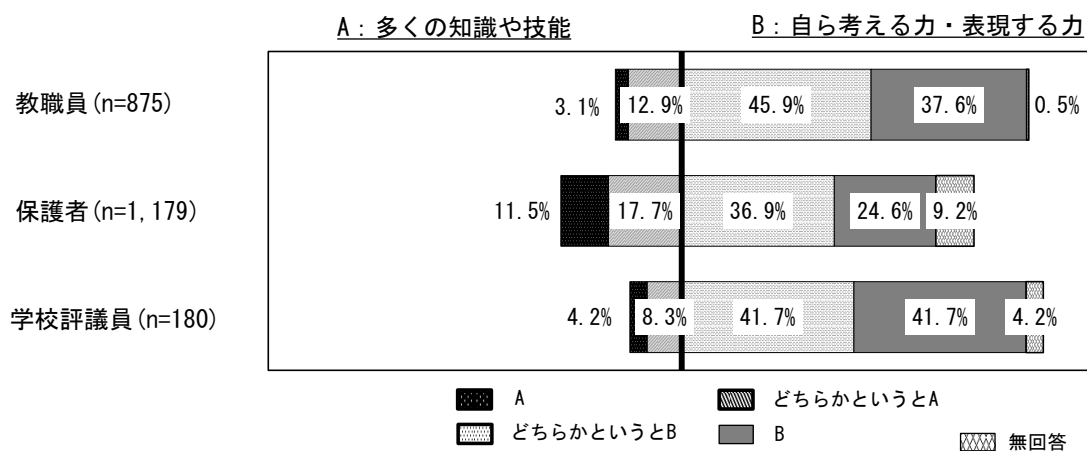
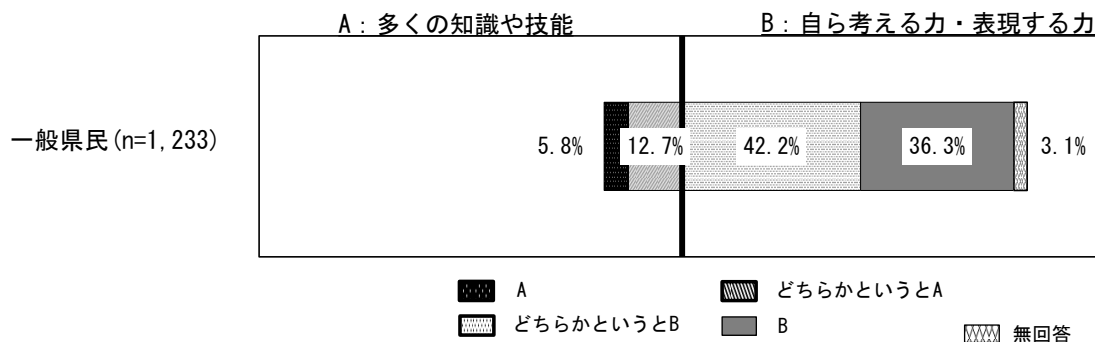


図 IV-5 一般県民



A「暗記や反復学習などにより、多くの知識や技能を身につける」とB「自分で調べたり、意見を発表することなどにより、自ら考える力や表現する力を身につける」とのどちらかに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「B」または「どちらかというともB」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：83.0%、H17：71.4%)、保護者(H25：75.1%、H17：68.9%)、学校評議員(H25：81.7%、H17：77.5%)、中学校では教職員(H25：71.1%、H17：56.3%)、保護者(H25：69.5%、H17：61.9%)、学校評議員(H25：83.3%、H17：76.7%)、高等学校では教職員(H25：67.8%、H17：46.1%)、保護者(H25：75.0%、H17：71.1%)、学校評議員(H25：85.2%、H17：81.5%)、特別支援学校では教職員(H25：83.5%、H17：69.1%)、保護者(H25：61.5%、H17：67.9%)、学校評議員(H25：83.4%、H17：85.1%)、一般県民では(H25：78.5%、H17：73.7%)との結果であった。(図IV-6～10 参照)

図 IV-6 学習指導の重点① 小学校

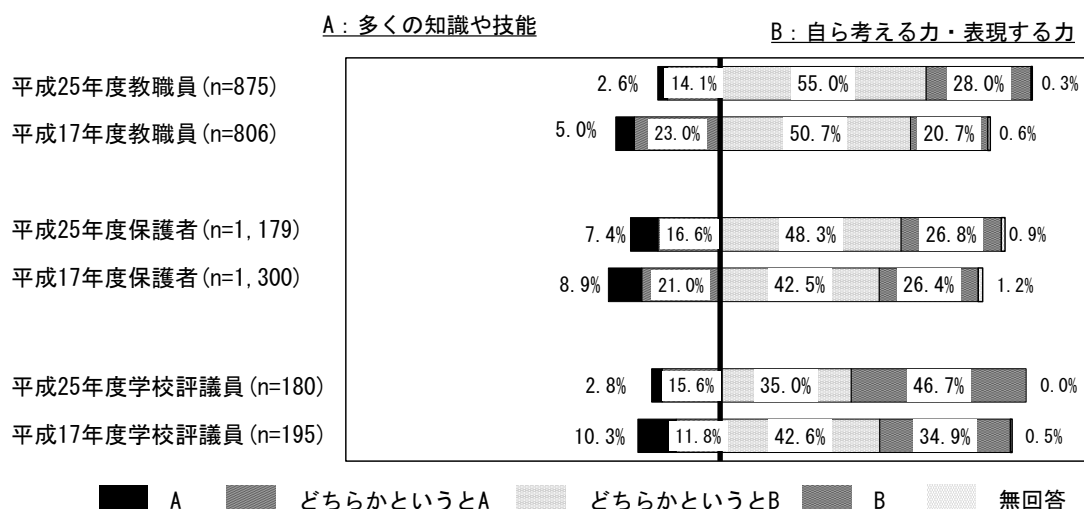


図 IV-7 学習指導の重点① 中学校

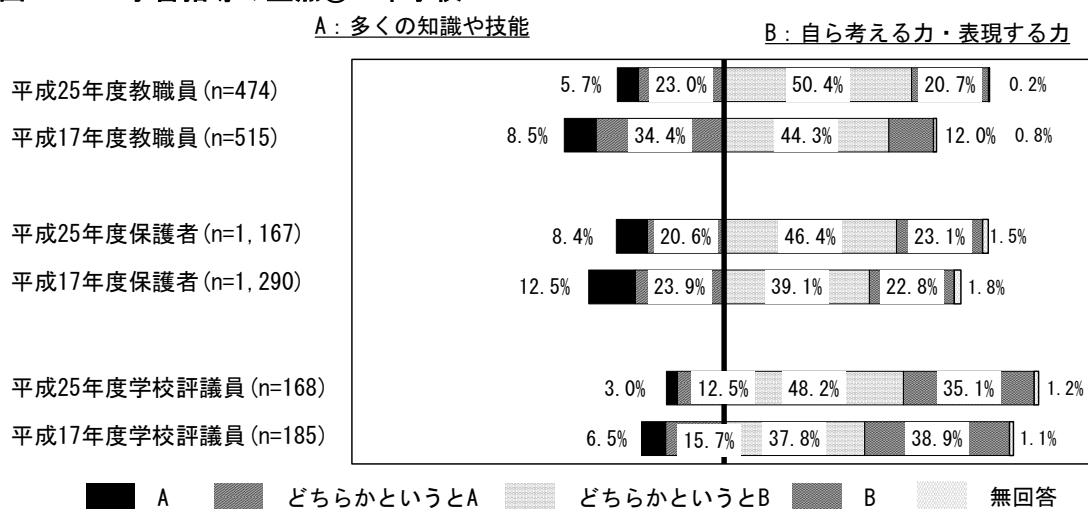


図 IV-8 学習指導の重点① 高等学校

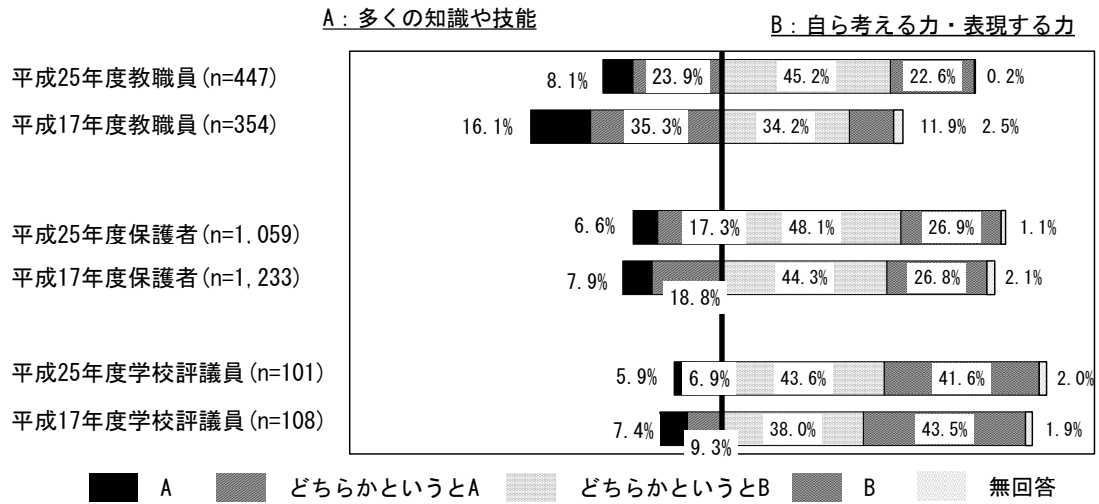


図 IV-9 学習指導の重点① 特別支援学校

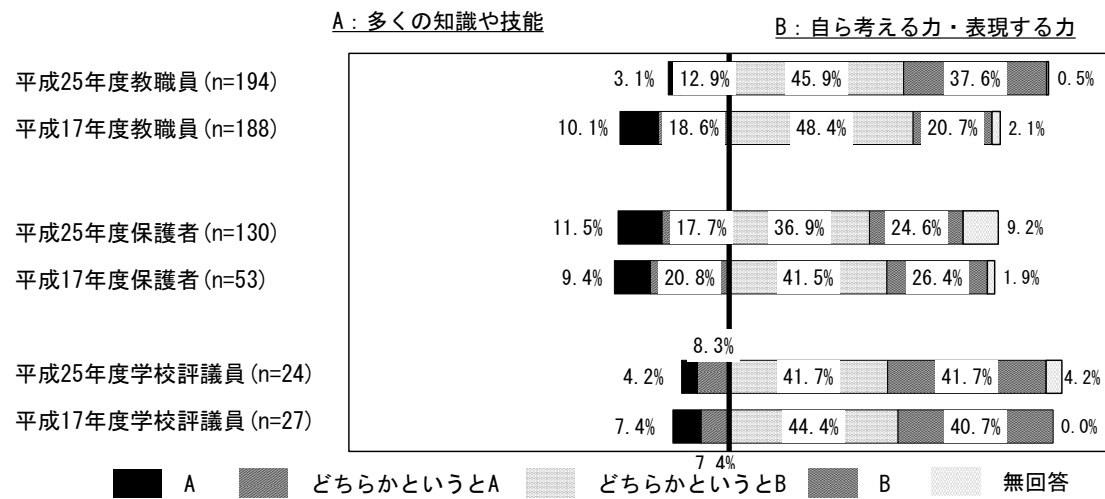
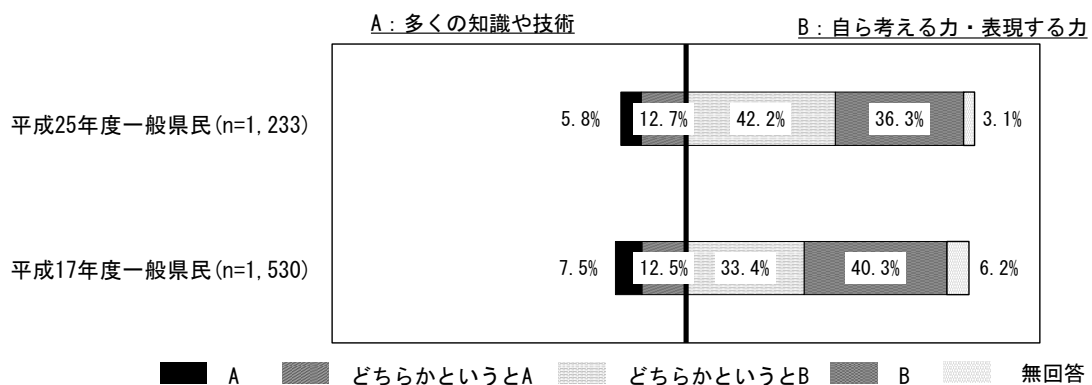


図 IV-10 学習指導の重点① 一般県民



IV-2 学習指導の重点② 「基礎・基本の学習」か「発展的な学習」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」とB「能力の高い子どもがより伸びるように、発展的な学習を行う」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「A」または「どちらか」というとA」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「A」または「どちらか」というとA」がいずれも高い割合となっている。

「A」または「どちらか」というとA」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 95.1%、保護者 83.1%、学校評議員 88.9%となっている。中学校では、教職員 91.6%、保護者 82.7%、学校評議員 86.4%となっている。高等学校では、教職員 73.0%、保護者 72.4%、学校評議員 57.4%となっている。特別支援学校では、教職員 90.7%、保護者 72.3%、学校評議員 87.5%となっている。また、一般県民では 77.5%となっている。(図IV-11～15 参照)

図 IV-11 小学校

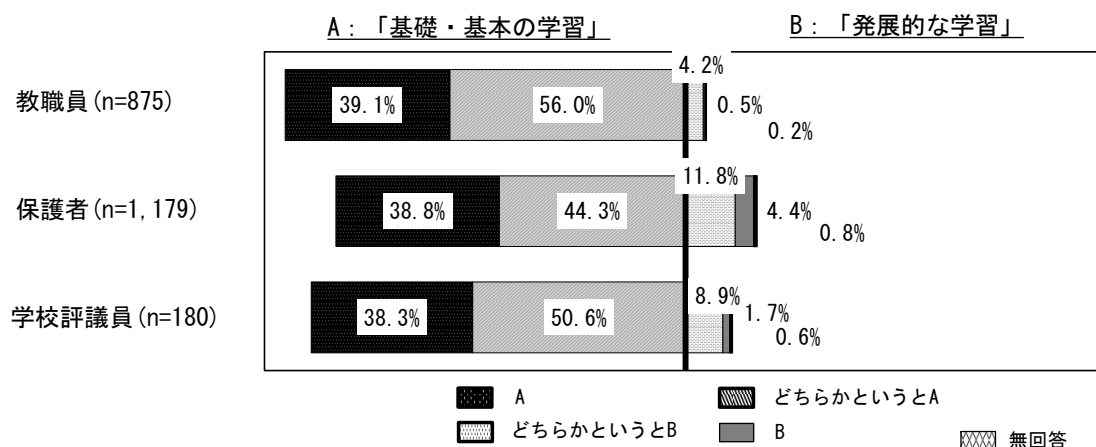


図 IV-12 中学校

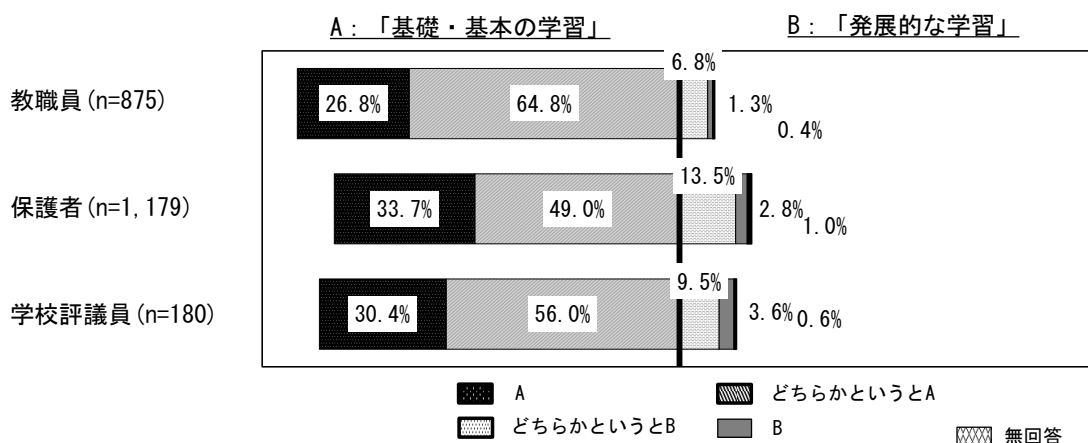


図 IV-13 高等学校

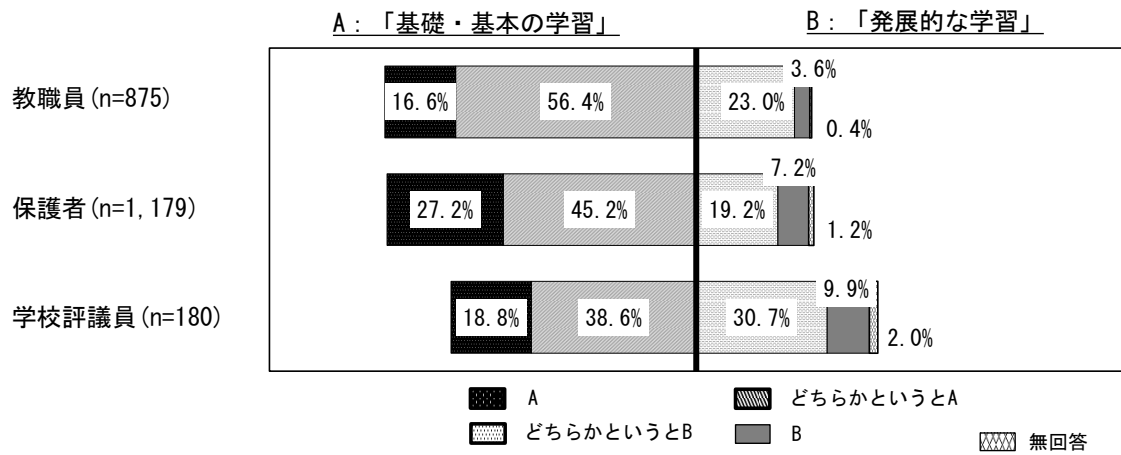


図 IV-14 特別支援学校

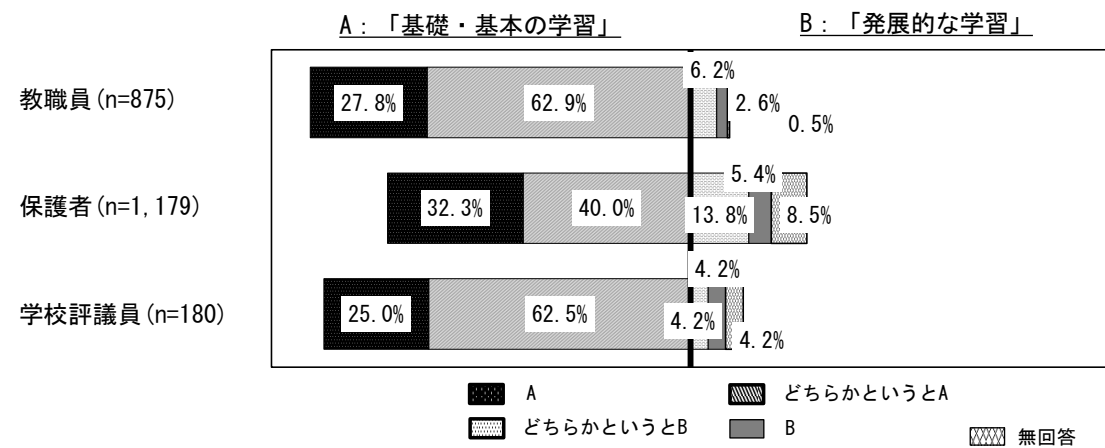
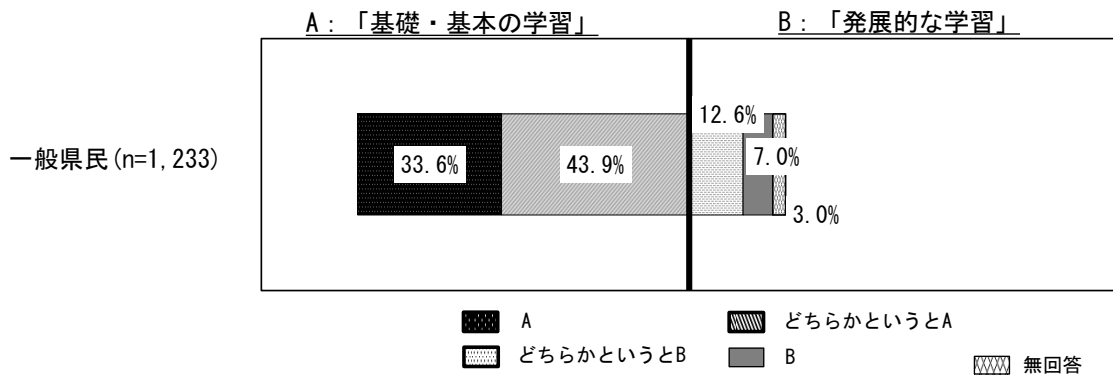


図 IV-15 一般県民



A「多くの子どもが理解できるよう、基礎・基本の学習を行う」とB「能力の高い子どもがより伸びるよう、発展的な学習を行う」とのどちらかに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「A」または「どちらかというA」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：95.1%、H17：93.7%)、保護者(H25：83.1%、H17：83.3%)、学校評議員(H25：88.9%、H17：85.6%)、中学校では教職員(H25：91.6%、H17：90.1%)、保護者(H25：82.7%、H17：82.3%)、学校評議員(H25：86.4%、H17：87.0%)、高等学校では教職員(H25：73.0%、H17：77.4%)、保護者(H25：72.4%、H17：79.5%)、学校評議員(H25：57.4%、H17：63.0%)、特別支援学校では教職員(H25：90.7%、H17：88.3%)、保護者(H25：72.3%、H17：84.9%)、学校評議員(H25：87.5%、H17：87.7%)、一般県民では(H25：77.5%、H17：73.7%)との結果であった。(図IV-16～20 参照)

図 IV-16 学習指導の重点② 小学校

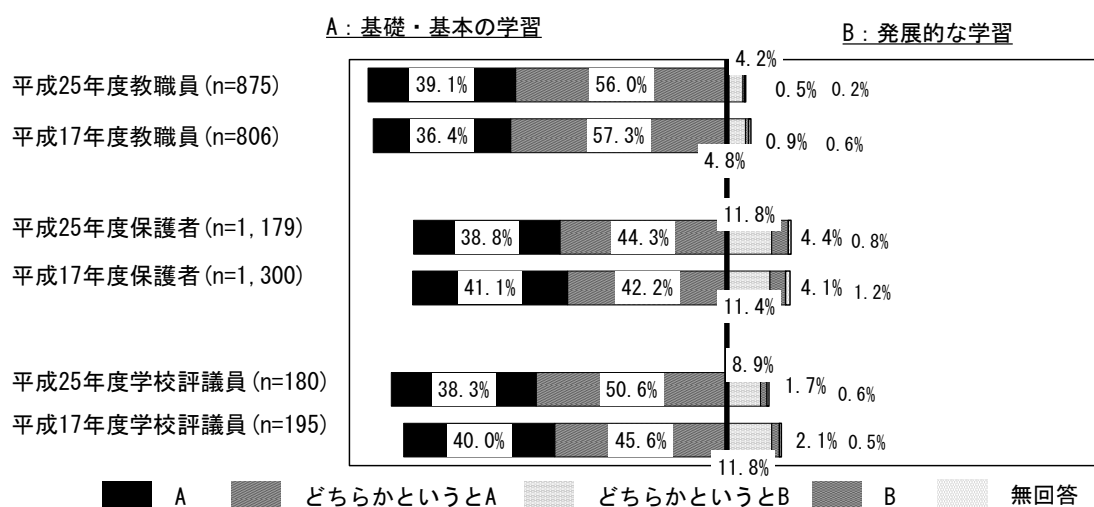


図 IV-17 学習指導の重点② 中学校

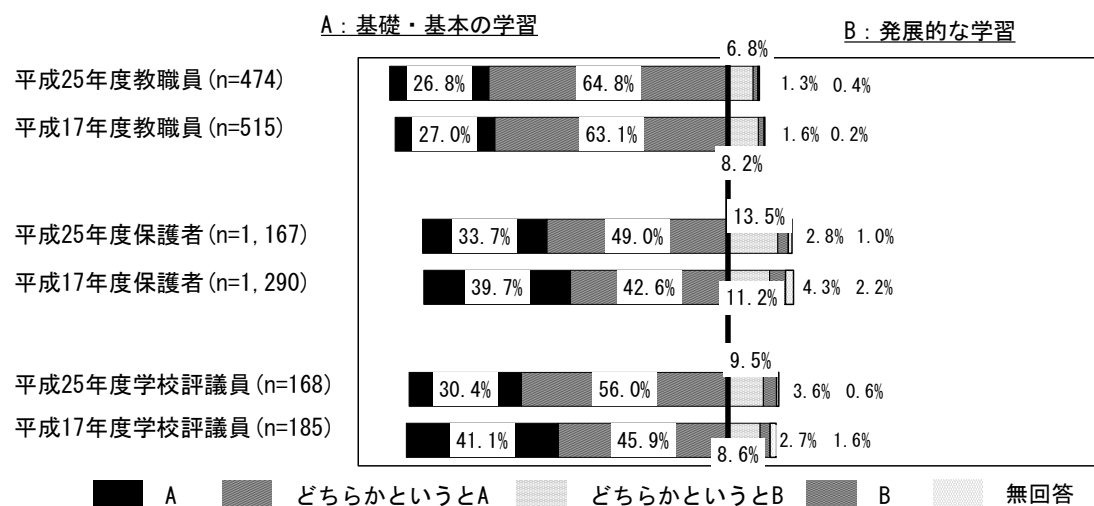


図 IV-18 学習指導の重点② 高等学校

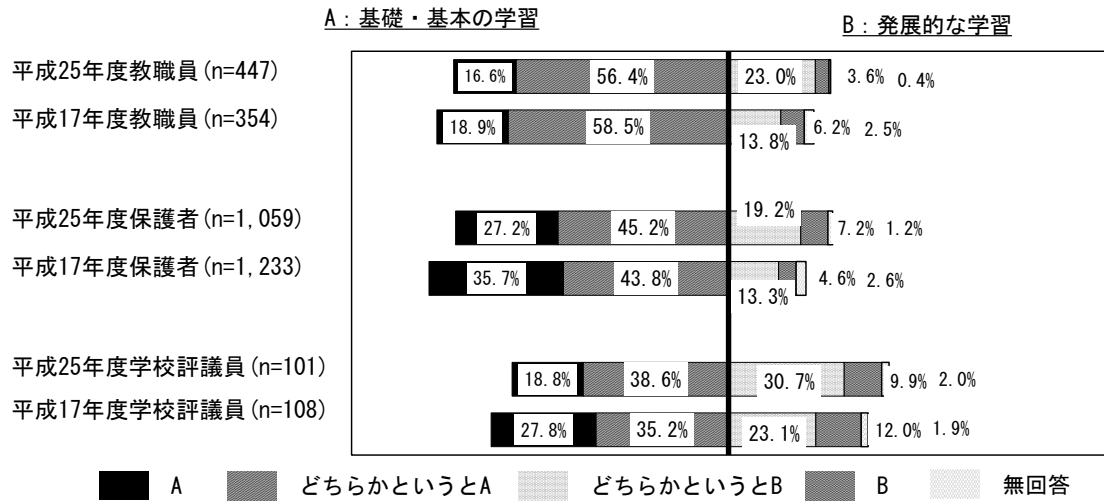


図 IV-19 学習活動の重点② 特別支援学校

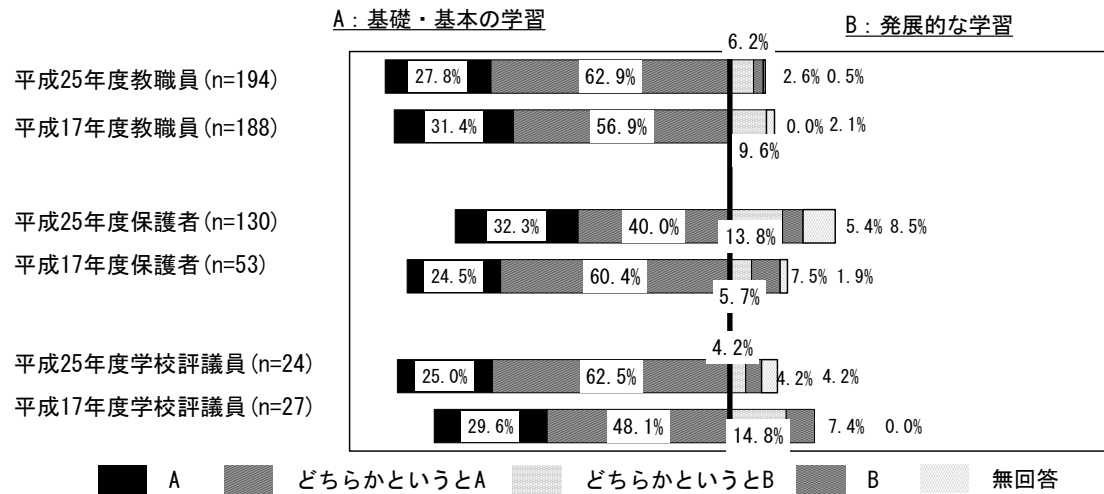
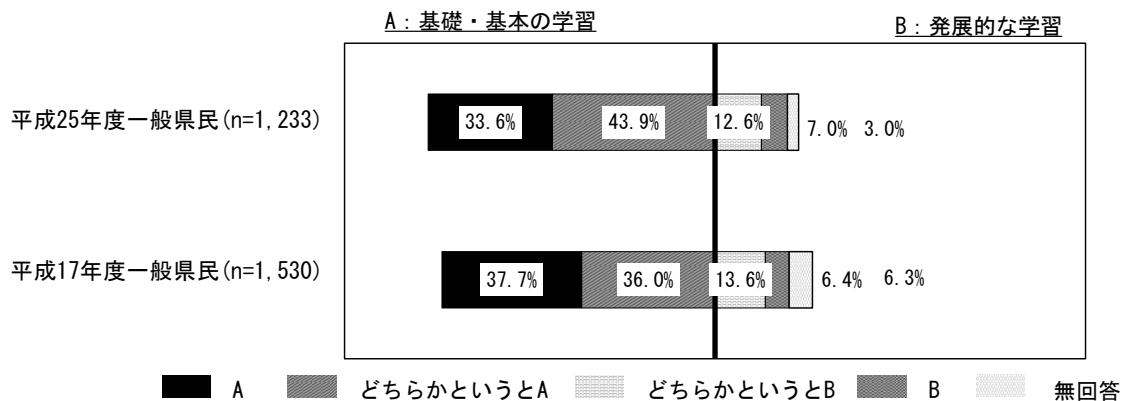


図 IV-20 学習活動の重点② 一般県民



IV - 3 学習指導の重点③ 「集団の中で学び合う」か「進度に応じて個別に学ぶ」か

現在の学校教育において、教職員、保護者、学校評議員及び一般県民にA「子どもたちが集団の中で互いに学び合う」とB「それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ」とのどちらに学習指導の重点をおくかを聞いたところ、「A」または「どちらかというとA」がいずれも高い割合となっている。

また、平成17年度調査結果でも「A」または「どちらかというとA」がいずれも高い割合となっている。

「A」または「どちらかというとA」と回答した割合の合計は、小学校では、教職員 91.6%、保護者 76.6%、学校評議員 83.4%となっている。中学校では、教職員 83.1%、保護者 72.0%、学校評議員 75.0%となっている。高等学校では、教職員 72.5%、保護者 64.4%、学校評議員 67.4%となっている。特別支援学校では、教職員 72.6%、保護者 60.8%、学校評議員 66.7%となっている。一般県民は 71.6%となっている。(図IV-21～25 参照)

図 IV-21 小学校

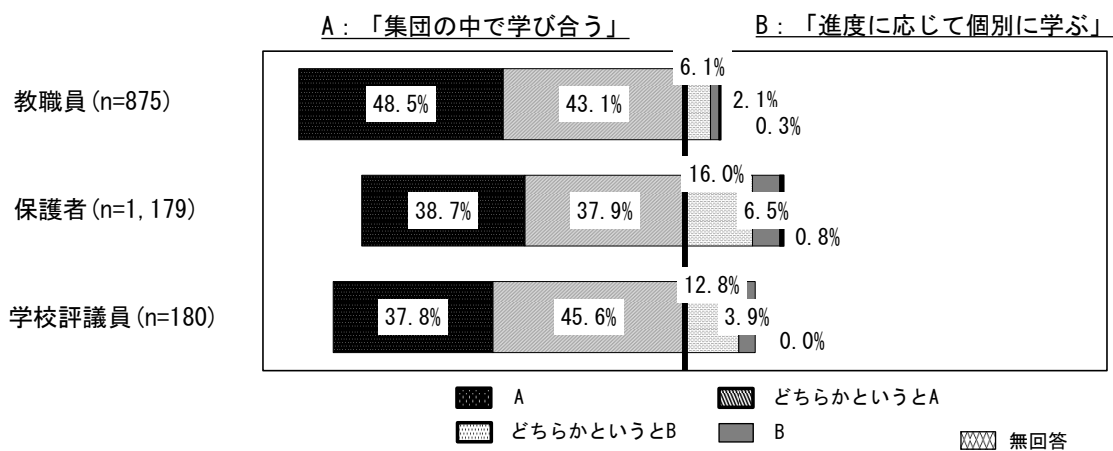


図 IV-22 中学校

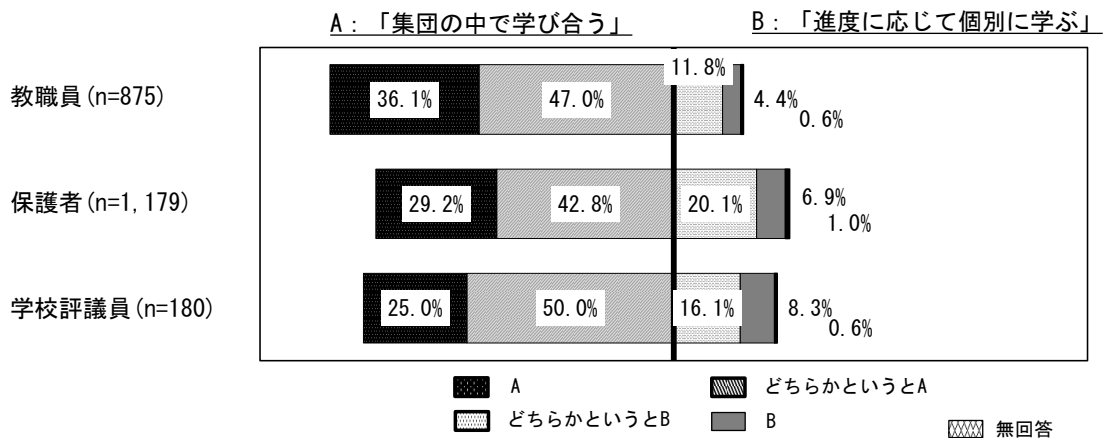


図 IV-23 高等学校

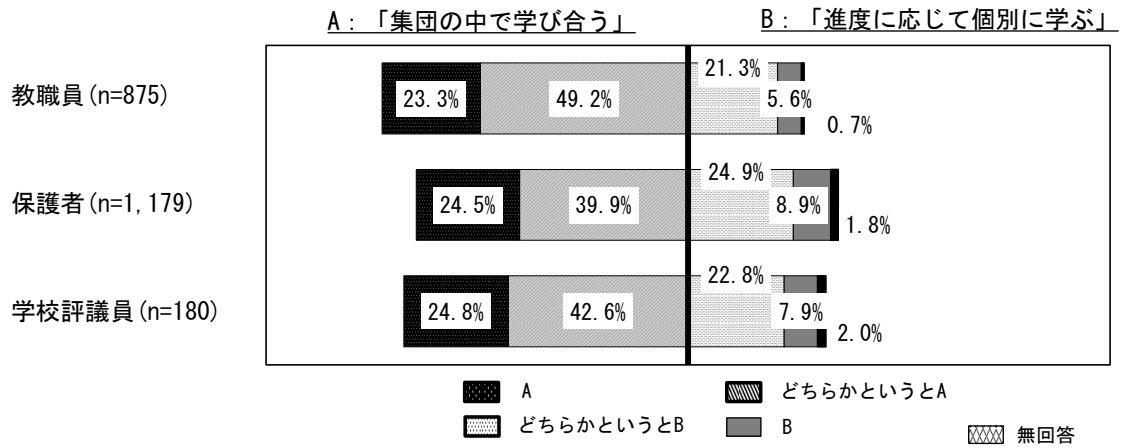


図 IV-24 特別支援学校

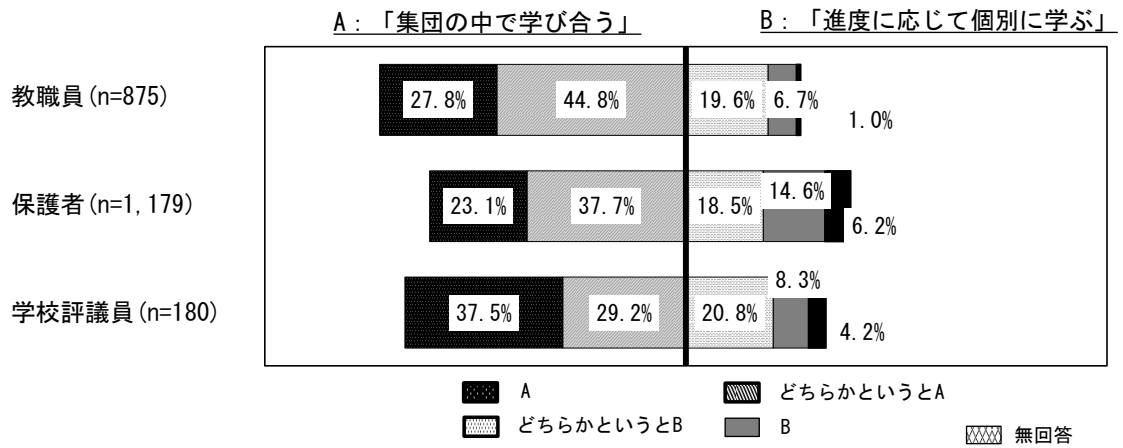
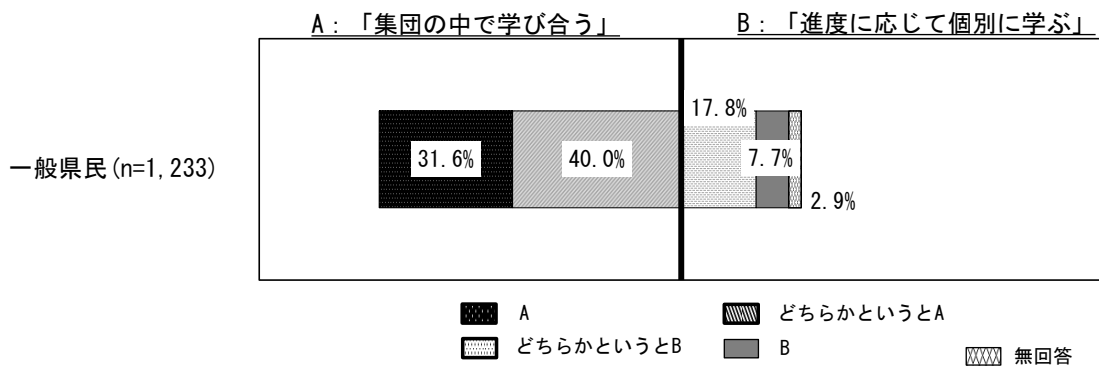


図 IV-25 一般県民



A「子どもたちが集団の中で互いに学び合う」とB「それぞれの子どもが進度に応じて個別に学ぶ」とのどちらに学習指導の重点をおくかについて、平成 17 年度調査結果と比較すると、「A」または「どちらかというとA」と回答した割合の合計は、小学校では教職員(H25：91.6%、H17：87.6%)、保護者(H25：76.6%、H17：75.2%)、学校評議員(H25：83.4%、H17：80.5%)、中学校では教職員(H25：83.1%、H17：73.4%)、保護者(H25：72.0%、H17：65.4%)、学校評議員(H25：75.0%、H17：72.4%)、高等学校では教職員(H25：72.5%、H17：62.7%)、保護者(H25：64.4%、H17：61.6%)、学校評議員(H25：67.4%、H17：57.4%)、特別支援学校では教職員(H25：72.6%、H17：64.9%)、保護者(H25：60.8%、H17：56.6%)、学校評議員(H25：66.7%、H17：59.2%)、一般県民では(H25：71.6%、H17：69.8%)との結果であった。(図IV-26～30 参照)

図 IV-26 学習指導の重点③ 小学校

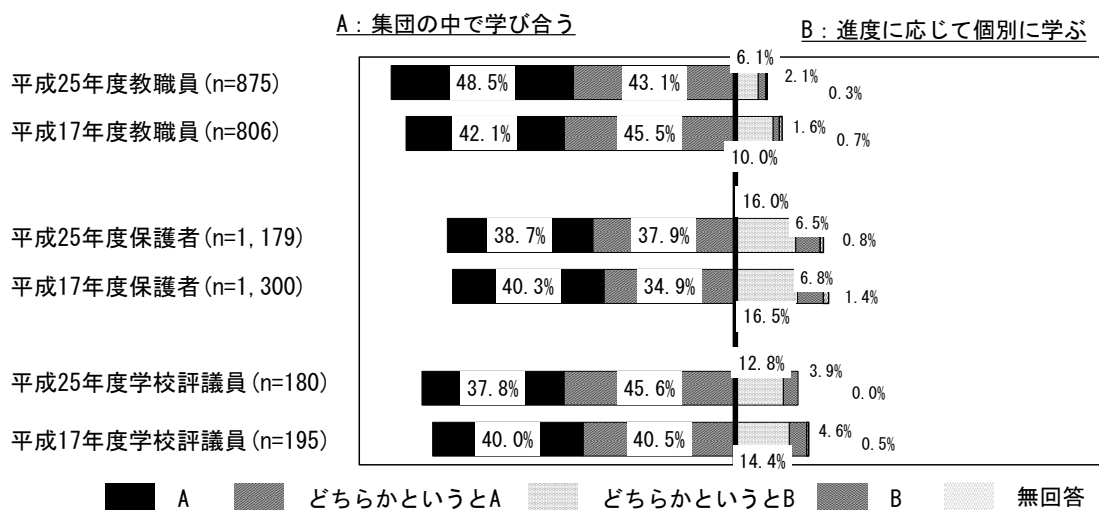


図 IV-27 学習指導の重点③ 中学校

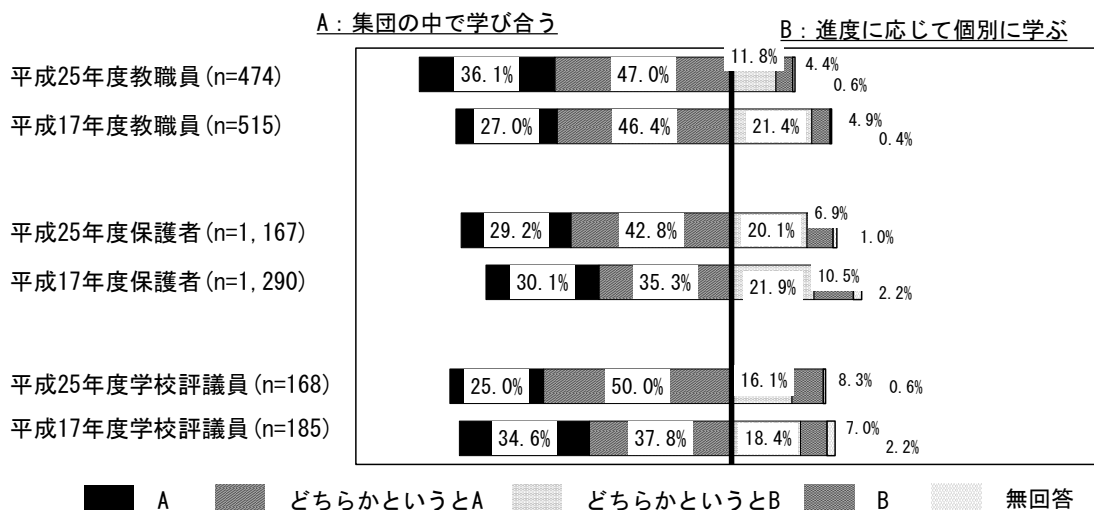


図 IV-28 学習指導の重点③ 高等学校

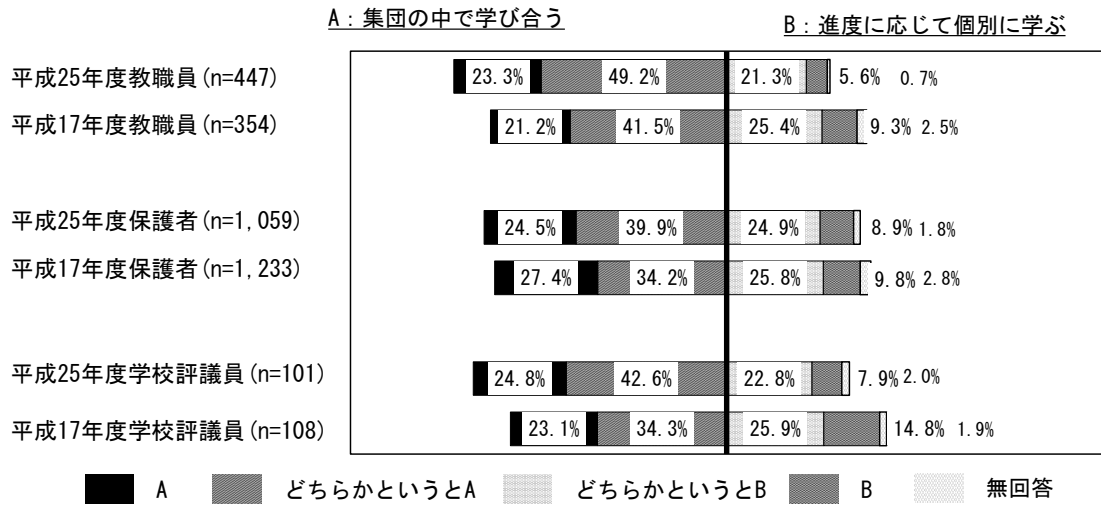


図 IV-29 学習指導の重点③ 特別支援学校

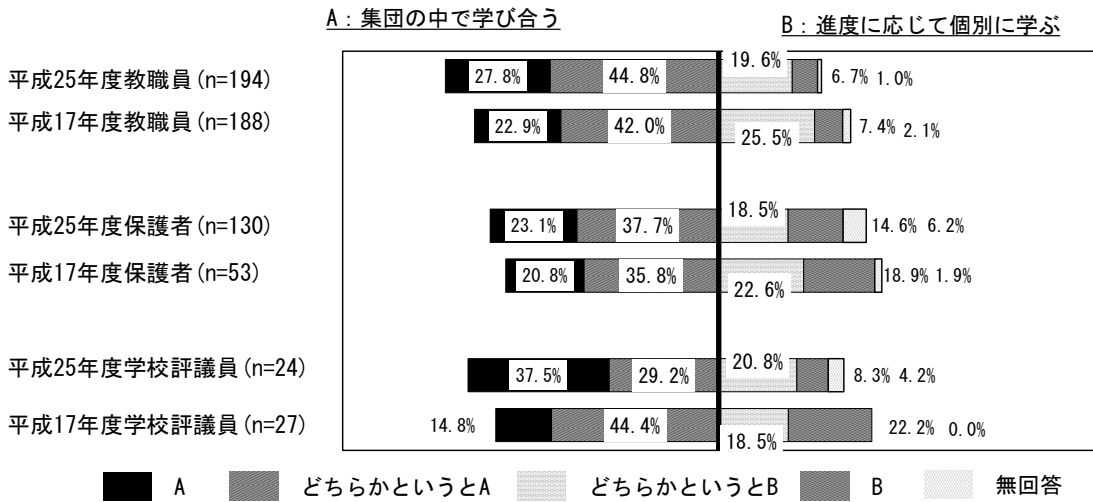
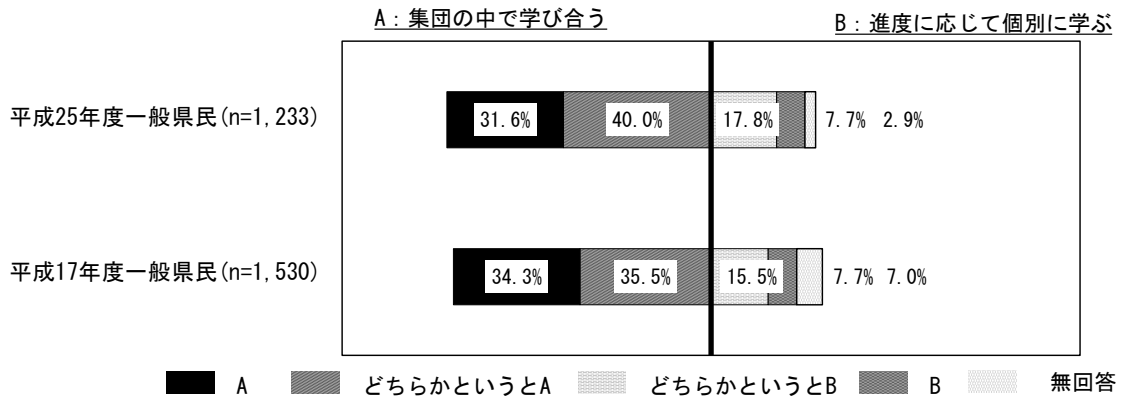


図 IV-30 学習指導の重点③ 一般県民



IV-4 教科やその他の活動の重点

保護者、学校評議員、一般県民に対して、今後、「学校でさらに力を入れてほしいと思う教育内容」について聞いたところ、回答の割合が高かったのは、保護者では『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育、「コミュニケーション能力を高める英語教育」、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」であり、学校評議員及び一般県民では、『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育、「豊かな心を育む道德教育」、「コミュニケーション能力を高める英語教育」の順であった。

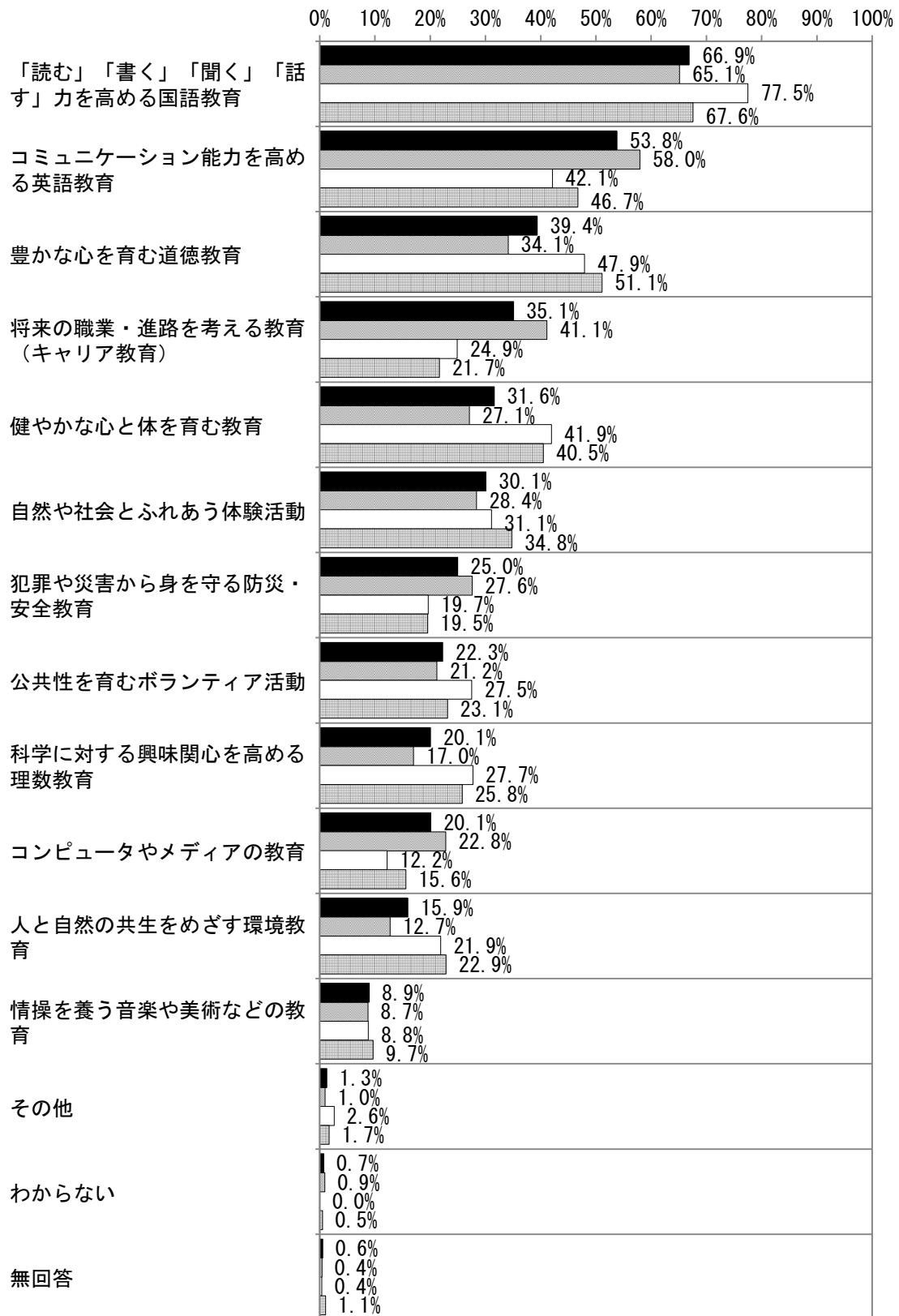
回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても保護者、学校評議員、一般県民の3者共に『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育をあげており、保護者の回答の割合は平成25年度調査では65.1%、平成17年度調査では68.5%、学校評議員の回答の割合は平成25年度調査では77.5%、平成17年度調査では81.2%、一般県民の回答の割合は平成25年度調査では67.6%、平成17年度調査では71.1%であった。

『教科やその他の活動の重点』について保護者、学校評議員及び一般県民に聞いたところ、回答の割合が高かったのは、保護者では『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育(65.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(58.0%)、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」(41.1%)であった。学校評議員及び一般県民では、『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育(学校評議員:77.5%、一般県民:67.6%)、「豊かな心を育む道德教育」(学校評議員:47.9%、一般県民:51.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(学校評議員:42.1%、一般県民:46.7%)の順であった。(表IV-1、図IV-31 参照)

表 IV-1 教科やその他の活動の重点(上位5項目)

	保護者	学校評議員	一般県民
1位	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 65.1%	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 77.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」 力を高める国語教育 67.6%
2位	コミュニケーション能力を 高める英語教育 58.0%	豊かな心を育む道德教育 47.9%	豊かな心を育む道德教育 51.1%
3位	将来の職業・進路を考える教育 (キャリア教育) 41.1%	コミュニケーション能力を 高める英語教育 42.1%	コミュニケーション能力を 高める英語教育 46.7%
4位	豊かな心を育む道德教育 34.1%	健やかな心と体を育む教育 41.9%	健やかな心と体を育む教育 40.5%
5位	自然や社会とふれあう体験活 動 28.4%	自然や社会とふれあう体験活 動 31.1%	自然や社会とふれあう体験活 動 34.8%

図 IV-31 教科やその他の活動の重点(保護者、学校評議員、一般県民)



■ 合計 (n=5,399)

▨ 保護者 (n=3,632)

□ 学校評議員 (n=534)

▤ 一般県民 (n=1,233)

『教科やその他の活動の重点』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、保護者の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(65.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(58.0%)、「将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育)」(41.1%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(68.5%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(49.4%)、「豊かな心を育む道德教育」(36.8%)であった。学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(77.5%)、「豊かな心を育む道德教育」(47.9%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(42.1%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(81.2%)、「健やかな心と体を育む教育」(51.5%)、「豊かな心を育む道德教育」(50.7%)であった。一般県民の回答は平成 25 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(67.6%)、「豊かな心を育む道德教育」(51.1%)、「コミュニケーション能力を高める英語教育」(46.7%)であり、平成 17 年度調査では「『読む』『書く』『聞く』『話す』力を高める国語教育」(71.1%)、「豊かな心を育む道德教育」(50.0%)、「健やかな心と体を育む教育」(45.1%)であった。(表IV-2 参照)

表 IV-2 教科やその他の活動の重点(上位 5 項目)

	保護者		学校評議員		一般県民	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=3,632	n=3,876	n=534	n=515	n=1,233	n=1,530
1 位	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 65.1%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 68.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 77.5%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 81.2%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 67.6%	「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める国語教育 71.1%
2 位	コミュニケーション能力を高める英語教育 58.0%	コミュニケーション能力を高める英語教育 49.4%	豊かな心を育む道德教育 47.9%	健やかな心と体を育む教育 51.5%	豊かな心を育む道德教育 51.1%	豊かな心を育む道德教育 50.0%
3 位	将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育) 41.1%	豊かな心を育む道德教育 36.8%	コミュニケーション能力を高める英語教育 42.1%	豊かな心を育む道德教育 50.7%	コミュニケーション能力を高める英語教育 46.7%	健やかな心と体を育む教育 45.1%
4 位	豊かな心を育む道德教育 34.1%	健やかな心と体を育む教育 36.1%	健やかな心と体を育む教育 41.9%	自然や社会とふれあう体験活動 31.8%	健やかな心と体を育む教育 40.5%	自然や社会とふれあう体験活動 33.8%
5 位	自然や社会とふれあう体験活動 28.4%	将来の職業・進路を考える教育(キャリア教育) 30.6%	自然や社会とふれあう体験活動 31.1%	コミュニケーション能力を高める英語教育 27.8%	自然や社会とふれあう体験活動 34.8%	コミュニケーション能力を高める英語教育 31.7%

IV - 5 勉強する理由

子どもに『勉強する理由』を聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「立派な大人になるため」、「将来何かの役に立つと思うから」、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」、中学生では「高校や大学に進学したいから」、「将来何かの役に立つと思うから」、「立派な大人になるため」、高校生では「将来何かの役に立つと思うから」、「進学したいから」、「やりたい仕事があるから」であった。また、特別支援学校児童・生徒に『学校に行く理由』を聞いたところ、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」、「新しいことを知ることが楽しいから」、「立派な大人になるため」との回答の割合が高かった。

児童・生徒が『勉強する理由』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成25年度調査では「立派な大人になるため」(48.2%)であり、平成17年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(45.9%)であった。中学生の回答は、いずれの調査においても「高校や大学に進学したいから」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では46.4%、平成17年度調査では51.0%であった。高校生の回答で最も割合が高かった項目は平成25年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)であり、平成17年度調査では「進学したいから」(38.8%)であった。また、特別支援学校児童・生徒が『学校に行く理由』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」があげられており、平成25年度調査では38.7%、平成17年度調査では38.5%であった。

『勉強する理由』について児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「立派な大人になるため」(48.2%)、「将来何かの役に立つと思うから」(45.1%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(25.0%)であり、中学生では「高校や大学に進学したいから」(46.4%)、「将来何かの役に立つと思うから」(38.1%)、「立派な大人になるため」(28.0%)、高校生では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)、「進学したいから」(34.7%)、「やりたい仕事があるから」(25.2%)であった。

また、特別支援学校児童・生徒に『学校に行く理由』を聞いたところ、「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.7%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(26.6%)、「立派な大人になるため」(21.0%)との回答の割合が高かった。(表IV-3、図IV-32, 33 参照)

表 IV-3 勉強する理由(上位5項目) (特別支援学校児童・生徒は「学校に行く理由」)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校児童・生徒
1位	立派な大人になるため 48.2%	高校や大学に進学したいから 46.4%	将来何かの役に立つと思うから 35.6%	学校で学んだことが、将来役に立つと思うから 38.7%
2位	将来何かの役に立つと思うから 45.1%	将来何かの役に立つと思うから 38.1%	進学したいから 34.7%	新しいことを知ることが楽しいから 26.6%
3位	新しいことを知ったり、わかることが楽しいから 25.0%	立派な大人になるため 28.0%	やりたい仕事があるから 25.2%	立派な大人になるため 21.0%
4位	高校や大学などに行きたいから 22.7%	やりたい仕事があるから 22.6%	立派な大人になるため 20.0%	わからない 15.3%
5位	やりたい仕事があるから 19.4%	新しい知識を知ったり、わかることが楽しいから 15.7%	新しい知識を得たり、理解することが楽しいから 17.0%	やりたいことがあるから 14.5%

図 IV-32 勉強する理由(小中高生)

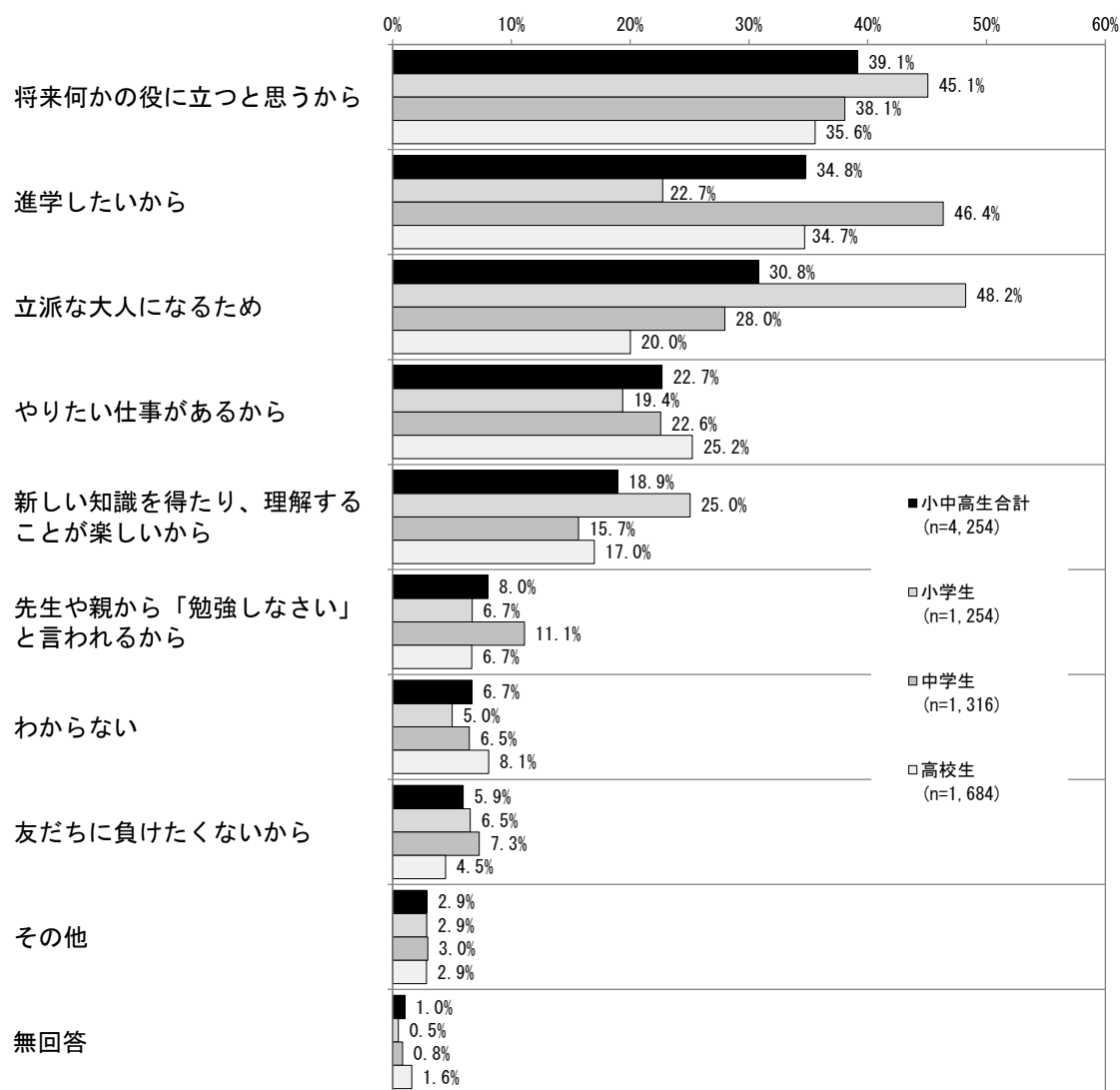
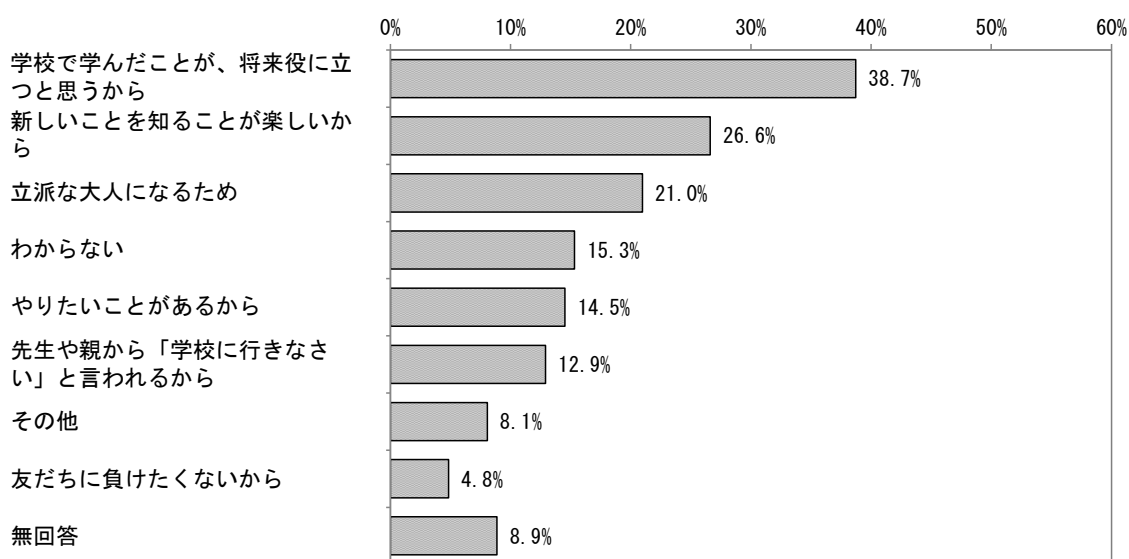


図 IV-33 学校に行く理由(特別支援学校児童・生徒 n=124)



児童・生徒が『勉強する理由』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「立派な大人になるため」(48.2%)、「将来何かの役に立つと思うから」(45.1%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(25.0%)であり、平成 17 年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(45.9%)、「新しいことを知ったり、わかることが楽しいから」(28.2%)、「立派な大人になるため」(24.7%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「高校や大学に進学したいから」(46.4%)、「将来何かの役に立つと思うから」(38.1%)、「立派な大人になるため」(28.0%)であり、平成 17 年度調査では「高校や大学に進学したいから」(51.0%)、「将来何かの役に立つと思うから」(32.2%)、「やりたい仕事があるから」(22.1%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「将来何かの役に立つと思うから」(35.6%)、「進学したいから」(34.7%)、「やりたい仕事があるから」(25.2%)であり、平成 17 年度調査では「進学したいから」(38.8%)、「将来何かの役に立つと思うから」(29.4%)、「やりたい仕事があるから」(28.9%)であった。

また、特別支援学校児童・生徒が『学校に行く理由』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、平成 25 年度調査では「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.7%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(26.6%)、「立派な大人になるため」(21.0%)であり、平成 17 年度調査では「学校で学んだことが、将来役に立つと思うから」(38.5%)、「新しいことを知ることが楽しいから」(36.9%)、「やりたいことがあるから」(35.4%)であった。(表IV-4 参照)

表 IV-4 勉強する理由(上位 6 項目) (特別支援学校児童・生徒は「学校へ行く理由」)

	小学生		中学生	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 254	n=1, 394	n=1, 316	n=1, 446
1 位	立派な大人になるため 48.2%	将来何かの役に立つ と思うから 45.9%	高校や大学に進学し たいから 46.4%	高校や大学に進学し たいから 51.0%
2 位	将来何かの役に立つ と思うから 45.1%	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 28.2%	将来何かの役に立つ と思うから 38.1%	将来何かの役に立つ と思うから 32.2%
3 位	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 25.0%	立派な大人になるた め 24.7%	立派な大人になるた め 28.0%	やりたい仕事がある から 22.1%
4 位	高校や大学などに行 きたいから 22.7%	高校や大学などに行 きたいから 21.9%	やりたい仕事がある から 22.6%	新しいことを知った り、わかることが楽し いから 16.0%
5 位	やりたい仕事がある から 19.4%	やりたい仕事がある から 18.6%	新しい知識を知った り、わかることが楽し いから 15.7%	立派な大人になるた め 15.1%
6 位	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 6.7%	友だちに負けたくな いから 11.8%	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 11.1%	先生や親から「勉強し なさい」と言われるか ら 12.9%

	高校生		特別支援学校児童・生徒	
	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)	(平成 25 年度)	(平成 17 年度)
	n=1, 684	n=1, 636	n=124	n=65
1 位	将来何かの役に立つ と思うから 35.6%	進学したいから 38.8%	学校で学んだことが、 将来役に立つと思う から 38.7%	学校で学んだことが、 将来役に立つと思う から 38.5%
2 位	進学したいから 34.7%	将来何かの役に立つ と思うから 29.4%	新しいことを知ること が楽しいから 26.6%	新しいことを知ること が楽しいから 36.9%
3 位	やりたい仕事がある から 25.2%	やりたい仕事がある から 28.9%	立派な大人になるた め 21.0%	やりたいことがある から 35.4%
4 位	立派な大人になるた め 20.0%	新しい知識を得たり、 理解することが楽し いから 18.6%	わからない 15.3%	先生や親から「学校に 行きなさい」と言われ るから
5 位	新しい知識を得たり、 理解することが楽し いから 17.0%	わからない 10.6%	やりたいことがある から 14.5%	立派な大人になるた め
6 位	わからない 8.1%	立派な大人になるた め 9.0%	先生や親から「学校に 行きなさい」と言われ るから 12.9%	わからない 13.8%